

菊池正士 きくち せいし 原子物理學者、理學博士。明治二十五年八月二十一日
東京生れ、昭和四十九年十一月十一日歿（九〇一七歳）。數學者菊池大
麓の四男。大正十五年東京帝國大學理學部物理學科卒。ドイツ留學を
經く、昭和九年大阪帝大教授、戰後東大原子核研究所初代所長、東京
理科大学學長歴任。この間の二十六年文化勳章受賞、二十二年日本學
士院會員。

著書 『量子力学』（昭和八年）三月十五日岩波書店「科學叢書」、『原
子物理學概論』（昭和十年五月）二十日岩波書店「岩波全書」、『中性
子・I』（青木寬夫共著、昭和十一年六月十日岩波書店「科學文獻
抄」）、『原子核及小元素の人工轉換』全二冊（上卷・昭和十二年九
月十五日、下卷・湯川秀樹共著・十五年七月十二日岩波書店）、『近
代の超克―知的協力會議』（合著、昭和十八年七月二十日創元社）、
『粒子と液―基礎物理八話』（昭和二十二年八月）二十日創元社「百花
文庫」、『原子物理學本論』全二冊（上卷・昭和二十七年五月七日、
下卷・九月十五日岩波書店）、『原子核の世界』（昭和二十二年七月
十七日岩波書店「岩波新書」）等。